

平成29年度

東京都美術館年報

Tokyo
Metropolitan
Art Museum
Annual Report
2017



TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

3

アート・コミュニケーション事業

人と作品、人と人、人と場所とをつなぎ、アートを媒介とした新たなコミュニケーションを育む活動を展開。美術館に集まる多種多様な人々とのコミュニケーションを大切に、そこから創出される新しい価値観を社会に届けることで、アートを介したコミュニティを育んでいくことを目的としている。

とびらプロジェクト

Museum Start あいうえの

学校連携

展覧会関連プログラム

建築ツアー

障害のある方のための特別鑑賞会

調査・研究プロジェクト・その他

Design : Kazuya Kondo

とびらプロジェクト

2017(平成29)年度で6年目を迎えた、アートを介したコミュニティづくりを育むソーシャル・プロジェクト。当館と東京藝術大学(以下、藝大)が連携し、市民と共に美術館を拠点にオープンで実践的なコミュニティの形成を目指して活動している。一般公募の上、選考を経て集まった6期アート・コミュニケータ(愛称:とびラー)は、4・5期とびラーと合流し、132人が活動。とびラーと、学芸員と藝大の教員は対等に対話を重ねながら基礎講座や実践講座を経て、美術館や上野公園においてさまざまなプログラムを実施した。

とびラーの活動はボランティアな活動である。しかし、「アートを介してコミュニケーションを促進する人」という、その人の「働き」が明解に伝わるのが名称として最も重要と考え、とびラーをボランティアとは呼んでいない。とびラーは美術館や文化財を介して新たなコミュニケーション回路をつくる役割を持ち、学びと実践をくり返しながらプロジェクトを推進している。

藝大側の代表教員として日比野克彦氏(東京藝術大学美術学部長・美術学部先端芸術表現科教授)、プログラム運営のアドバイザーとして西村佳哲氏(働き方研究家/リビングワールド代表)、森司氏(アーツカウンシル東京事業推進室事業調整課長)が関わっている。実施プログラムは事業実績一覧(P.55～P.58)を参照。ウェブサイト[<http://tobira-project.info/>] (ページ・ビュー数/198,523)

とびラー募集の流れ

2016(平成28)年度

- 12月 6期とびラー募集広報開始
- 1月 とびらフォーラム(説明会) / 6期応募受付開始
- 2月 応募受付締切
- 3月 1次選考(書類審査)→2次選考(面接)→6期とびラー決定通知

2017(平成29)年度

- 4月 基礎講座(～6月)隔週土曜日6回(10～15時)全24時間
とびラボ(年度末までにのべ270回開催)
- 6月 実践講座(～3月)鑑賞実践講座 年間7回アクセス
実践講座 年間8回建築実践講座 年間8回
- 7月 『Museum Start あいうえの』プログラム開始
- 12月 7期とびラー募集広報開始
- 1月 とびらフォーラム(説明会) / 7期応募受付開始
- 2月 応募受付締切
- 3月 1次選考(書類審査)→2次選考(面接)→7期とびラー決定通知
開扉会(かいびかい:とびラーの任期满了式)

2017年度に新しく加わった6期とびラーの応募状況

202人からの応募があり、書類審査、面接を経て、50人を6期とびラーに決定。約6倍の倍率であった。この50人と4・5期とびラー82人とで6年目のとびらプロジェクトが始動した。



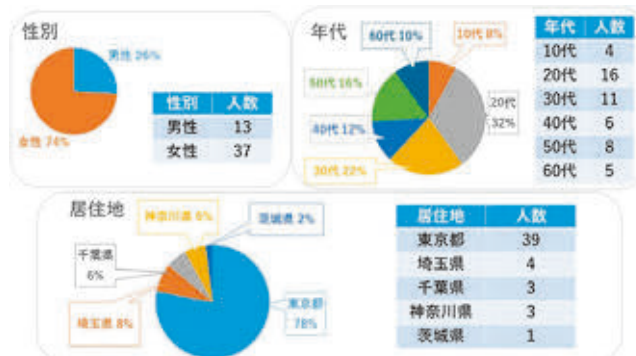
6期とびラー募集(チラシ)

とびらプロジェクトの事務局

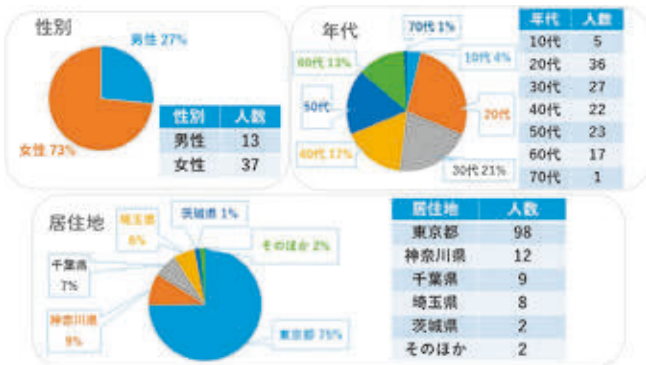
2016年度に引き続き、当館のプロジェクトルーム(交流棟2階)を拠点として、藝大美術学部の伊藤達矢特任准教授(とびらプロジェクト・マネージャ)と大谷郁特任助手(とびらプロジェクト・コーディネータ)、菅井薫特任研究員(とびらプロジェクト・コーディネータ)が運営の実務を担当した。

とびラーのすがた

年齢や性別、活動日などが偏らないようにも配慮された上で選考された2017年度のとびラーのすがたは次の図のとおりである。



6期とびラーのすがた2018(平成30)年3月末時点



2017(平成29)年度とびラーのすがた 4・5・6期2018(平成30)年3月
 末時点

基礎講座・実践講座

とびラーは「基礎講座」と「実践講座」を通して、当館のミッションと藝大からのメッセージ、とびらプロジェクトの目指す方向性を共有し、とびラーとしての役割への理解を深めていく。

・基礎講座(4～6月の隔週土曜日10～15時/全6回)

当館を拠点として、アートや文化財を介しながら新たなコミュニケーションを作っていくための基本を学ぶ。現在の美術館活動はどのようなものか? 対話やクリエイティブなコミュニケーションが起こる場づくりとは? ホスピタリティとは? など、具体的に参加形式で学ぶ。1年目のとびラーは全員必修。

第1回 オリエンテーション(全とびラー対象)

とびらプロジェクトを知る・語る

講師/伊藤達矢、稲庭彩和子

ねらい: 新とびラーと、4・5期とびラーやスタッフが複数の接点を持つ機会にする。コミュニケーションの中からとびらプロジェクトやMuseum Startあいうえのの特徴を知る。

第2回 「きく力」を身につける

講師/西村佳哲

ねらい: 「とびらプロジェクト」では上手な話し方を練習する講義ではなく、人の話を「きく」ための講座が用意されている。コミュニケーションの基本は、相手の話に興味をもって、真剣に「きく」ことだと考えているからである。話を「きく力」について考える。

第3回 作品を鑑賞するとは

講師/稲庭、河野佑美

ねらい: 作品の鑑賞について理解を深める。作品が存在することによって起こる体験とは、私たちにとってどのように意義があるのか、それらを鑑賞することの意味についても考える。

第4回 この指とまれ/そこにいる人が全て式/解散設定
 講師/西村

ねらい: とびラーが自主的に活動していくためには、自分たちでチームを作り、アイデアを共有し、お互いの力を上手に出し合って、成果を求めなくてはならない。この回では、小さなチームのつくり方や、そこに集まった人たち全員の力を活かした活動のつくり方について学ぶ。また、活動のはじめ方だけではなく、終わり方のデザインについても理解を深める。

第5回 ミュージアムの特性を生かしたプログラムづくり
 講師/日比野克彦、森司

ねらい: 上野公園には様々な特性を持ったミュージアムが集積している。各館に実際に足を運び、チームでプログラムのアイデアを練ることを通して、ミュージアムの特性を活かしたプログラムづくりについての体験を深める。

第6回 作品に立ち返ろう(全とびラー対象)

講師/稲庭

ねらい: とびらプロジェクトの活動は、作品をよく見ることが軸にある。作品を深く鑑賞するという美術館での体験を通して、作品を介したプログラムのつくりかたについて学ぶ。

番外編 会議が変われば社会が変わる

講師/青木将幸

ねらい: とびラーの自主的な活動には、とびラー同士が直接コミュニケーションをとるミーティングの場のあり方がとても重要である。ひとりひとりが主体的に関わるミーティングの場をつくるために、具体的な手法を学ぶ。



基礎講座(第4回)

・実践講座(6月以降各講座ごとに適宜実施)

活動の基本となる3つの柱に則した、より実践的な3種類の講座。各講座は外部の専門家や学芸員が担当、実際の

現場で気付いた疑問なども振り返りながら、活動への理解を深め、コミュニケーション・スキルを高めていく。

- A 鑑賞実践講座(モノと人を考える) / 全7回
講師 / 三ツ木紀英 (NPO法人芸術資源開発機構 ARDA)、稲庭、河野、鈴木
- B アクセス実践講座(ヒトと人を考える) / 全8回
講師 / 岩井成昭 (秋田公立美術大学)、小澤いぶき (NPO法人PIECES)、熊谷晋一郎 (東京大学先端科学技術研究センター准教授)、館野泰一 (立教大学経営学部助教)、林建太・木下路徳 (視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ)、林容子 (一般社団法人アーツアライブ)、松見幸太郎 (NPO法人キッズドア)、伊藤、稲庭、菅井
- C 建築実践講座(ハコと人を考える) / 全8回
講師 / 藤原徹平 (建築家・横浜国立大学大学院准教授)、倉方俊輔 (建築史家・大阪市立大学准教授)、伊藤香織 (東京理科大学教授)、大谷、河野

オープンレクチャー

「とびらプロジェクト」の一環として、とびラーおよびとびらプロジェクトに関心のある一般の方々を対象に、とびらプロジェクト・オープンレクチャーを実施した。とびラーが「アート・コミュニティの形成」について理解を深めるとともに、とびらプロジェクトに関心のある一般の方々にも発信する機会としている。

2017(平成29)年度は、vol.7を7月に、vol.8を11月開催。vol.7では「Eating Designer マライエ・フォーゲルサングが語る『食べること×デザイン』」をタイトルに、マライエ・フォーゲルサング氏をオランダから招聘し、食を介して人々をつなぐデザインを考える回とした。また、vol.8では「人々が本当に幸せに暮らせる社会とは？—べてる式×とびら式」をタイトルに、ソーシャル・ワーカーの向谷地生良氏と西村佳哲氏、藝大の伊藤、都美の稲庭が登場し、社会の中で多様な個人が互いに受け止め合うときの大切な視点について理解を深める内容となった。



とびらプロジェクト・オープンレクチャー vol.7 撮影：藤島亮

とびらプロジェクトフォーラム

6期とびラー募集のための2部構成の説明会(フォーラム)を開催。全体のテーマを「アート・コミュニケータ奮闘記—うまくいったり、いかなかったり」とし、第1部は講堂において、「アート・コミュニケータが語る自分のはたらき」というテーマで西村氏と稲庭、任期満了後のアート・コミュニケータがアート・コミュニケータとしての活動について語った。続くパネルディスカッションでは「とびらプロジェクト」に設立から関わっているメンバー(日比野・西村・森・伊藤・稲庭)が「うまくいったり、いかなかったり」を支える人のつながりとは?というテーマで100名を超える任期満了後のアート・コミュニケータたちが社会の中で独自に行なっている様々な活動の事例に焦点を当てた。第2部はとびラーの活動拠点であるアートスタディールームを会場に「オープンスペース・カフェ」を開催し、「とびらプロジェクト」の活動拠点を公開。参加者同士がフランクに対話できるカフェや、普段の活動を知ってもらうための資料を用意し、パネリストやとびラーが来場者の率直な疑問にも対応した。同時に、講堂にて、任期満了後のアート・コミュニケータの活動を紹介するパネル展示と座談会を開催。のべ参加者数292人。



とびらプロジェクトフォーラム 撮影：中島佑輔

とびラボ

「とびラボ」はとびラー同士が自発的に開催する学び合いの場であり、新しいプロジェクトの検討と発信が行われる場所である。様々なバックグラウンドを持つとびラーによる「この指とまれ式」→「そこにいる人がすべて式」→「解散!また結成」の3ステップでオリジナルの活動が生まれ、アートを介したコミュニケーションの可能性が大きく広がっている。同時に「とびラボ」はとびラー同士のゆるやかなコミュニケーションの場でもあり、対話から生まれる充実した時間が美術館に新しい価値を注ぎ込んでいる。年間のべ開催数270回。のべ参加者数1,663人。

主な「とびラボ」

とびらボードでGO！、イロいろとび缶バッジ、パパトコはじめてミュージアム、アート筆談deコミュニケーション、オリジナルモンスターを作ろう！、藝祭さんぽ、トレジャーコレクティング、とびからポストん！、ヨリミチビジュツカン、藝大卒展さんぽ、なりきりアーティスト、女子美卒展さんぽ、など。



とびラボ「藝大卒展さんぽ」

とびらプロジェクトのコミュニケーション・デザインと活動の記録保存

とびラー同士は、実際に会って話し合ったり、プログラムを実施したりするのに加えて、メーリングリストとウェブ上の「掲示板(募集・告知機能)」と「ホワイトボード(報告機能)」をコミュニケーション補助ツールとして運用しながら活動を活発化させている。「この指とまれ式」で集まった有志のとびラーの活動は、プログラム実施までのプロセスや、実施後の振り返りなどの内容をそれぞれが自主的に記録し、ウェブ上にある「掲示板」や「ホワイトボード」に必ずアップロードすることによって、約100人からなるとびラー同士が常に情報共有できるように設計されている。こうした記録は、活動のプロセスの共有の場となった後、アーカイブとしての機能も果たし、次の世代のとびラーがまたそれを参照できるようにつくられている。

これからゼミ

「これからゼミ」とは、とびらプロジェクトでの任期満了後、どの様に活動していくのかについて考え、その準備を進めるためのゼミである。3年目とびラーを1名以上含むチームを結成し活動を進めていく。内容によっては、スタッフとの情報共有の上、館外で活動を行うことも可能である。「アート・コミュニケータ」としての総仕上げの場として設定されている。ミーティング開催数 33回、のべ参加者数 291人。

「これからゼミ」から生まれたプログラムは下記の通りである。

①長生村鑑賞ツアー(大人向け、親子向け)

千葉県長生村の村民たちのための上野公園ツアーと作品鑑賞の半日プログラム。11月は大人のためのツアー、3月には、小学生の親子のためのツアーを開催。参加者の年齢を考慮し、休憩や動線、時間配分等の細部まで配慮しながらプログラムを構築。

②TURNさんぽ

公募展展示室でおこなわれる「TURNフェス3」の開催に合わせ、展示作品やフェス自体への親しみと興味をさらに持ってもらうことを目的に、複数人のグループで展示をみてまわるツアーを企画。思ったことや感じたことを他の参加者やとびラーと共有したり、会場で出会う人々との交流も楽しむことを目的としたプログラム。



これからゼミ「長生村小学生親子のための鑑賞ツアー」

開扉会(かいびかい)

とびラーの任期は最長3年間のため、2018(平成30)年3月末に4期とびラーが任期満了となった。都美のとびらを開け続けてきたとびラーが次の世界に飛び立つ、送る会「開扉会(かいびかい)」を開催。館長と日比野氏からのメッセージと当館の最寄り駅であるJR上野駅や東京メトロ上野駅からの初乗り切符がセットされた「開扉の証」が授与された。任期満了とびラー 26人。



開扉会 撮影：中島佑輔

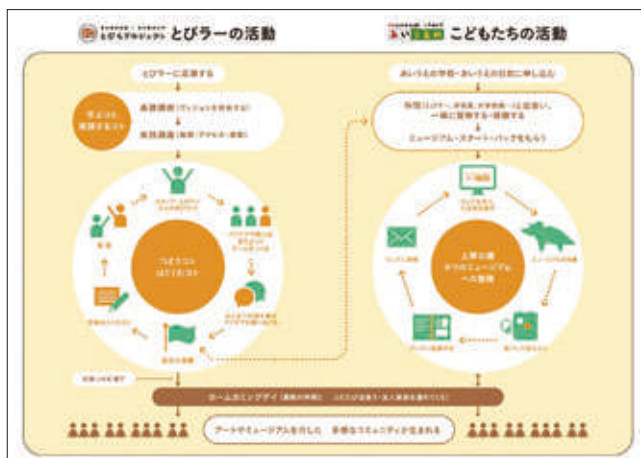
Museum Start あいうえの

上野公園に集まる9つの文化施設が連携し、子どもたちのミュージアム・デビューを応援するプロジェクト。子どもと大人がフラットに学びあえる環境を創造する「ラーニング・デザイン・プロジェクト」である。日本を代表する文化施設が歩いて回れる範囲に集まっているという上野公園の魅力を活かし、バラエティ豊かな文化施設が連携することで、学びのスケールを何倍にも広げている。

このプロジェクトの連携館は、上野の森美術館、恩賜上野動物園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、国立西洋美術館、東京国立博物館、東京文化会館（五十音順）であり、アーツカウンシル東京の事業の一環として行われ、当館と藝大が推進役となって実施している。ロゴ、連携各館のアイコンなどのデザインは、藝大教授である日比野克彦氏によるものである。また、美術館の「ピ」のように、館種を表す言葉の頭文字をつないだ「ビビハドトカタブ」という造語をこのプロジェクトの「ひみつの呪文」としている。実施プログラムは事業実績一覧(P55～P58)を参照。ウェブサイト [http://museum-start.jp]（ページビュー数/158,530）

とびらプロジェクトとの連動

「Museum Start あいうえの」に参加する子どもたちが上野の豊富な文化資源と出会い、驚き、考え、発見するプロセスがより充実した体験になることを目指し、とびらプロジェクトのとびラーが積極的に活動、子どもたちの伴走役を務めた。大人と子どもが共に学び合う関係性を重要視している。



「Museum Start あいうえの」と「とびらプロジェクト」との連動



「Museum Start あいうえの」の連携

Museum Start あいうえの(リーフレット)

Museum Start あいうえの事務局

藝大美術学部の伊藤達矢特任准教授 (Museum Start あいうえのプロジェクト・マネージャ)、鈴木智香子特任助手 (Museum Start あいうえのプログラム・オフィサー)、松尾由子特任研究員 (Museum Start あいうえのプログラム・オフィサー、～12月)、長尾朋子特任助手 (Museum Start あいうえのプログラム・オフィサー、12月～)、渡邊祐子 (Museum Start あいうえのプログラム・オフィサー) が当館のプロジェクトルームにて運営の実務を担当した。

ミュージアム・スタート・パックの作成と配布

「Museum Start あいうえの」では、子どもたちがミュージアムを楽しく活用できるようにデザインしたツール「ミュージアム・スタート・パック」を参加者全員に手渡しでプレゼントしている。本年度リニューアルした。一冊にまとまった形式から連携各館を紹介する「ガイドブック」とミュージアムでの体験の記録を書き込める「冒険ノート」の2分冊形式となった。ファイルには呪文がキラキラ光る箔押しで配置されている。また、子どもたちの意欲をより高めるため、連携各館にパックを持って出掛けるとオリジナルバッジを集められる仕組みも作っている。また別冊として、保護者向けの小冊子も用意されている。



ミュージアム・スタート・パック

Museum Start あいうえのウェブサイトの機能

「Museum Start あいうえの」のウェブサイトは、連携する9館の豊富な情報をまとめて見られるように設計されている。特に、一般的には展覧会情報に付随して掲載されていて探しにくい子どもたちやその家族が参加できるプログラムの情報を一望できるカレンダー形式が採用されている。ミュージアムがより身近なものとなり、ワクワクするような情報へのアクセスを可能にすることを目的としているためである。子どもたちが各館へ出掛けていきやすいよう、連携各館の担当職員と緊密に連携をとりながら、開催されるプログラムの情報が日々更新され、「冒険の行き先」ページで情報を得られるようにデザインされている。また、プログラムの活動記録がブログ形式でアップされている。

年間活動プログラム

あいうえののプログラムは個人向けプログラムと学校向けプログラムで構成されている。子どもたちが、放課後や休日に家族とでも、また学校の授業の中でも、ミュージアムを楽しむことができるように、体験を通した学びの環境を用意した。

あいうえのファミリー(個人向けプログラム)

ミュージアムの楽しさや上野公園の魅力を体験できる、冒険と発見のプログラム。大人と子どもと一緒に学びあうことを目指している。障害のある子どもを含む、全ての子どもが参加可能。

・うえの！ふしぎ発見

全7回／各回定員10組20人／参加者数172人(子ども+保護者数)対象／小学1年生～高校3年生とその保護者

上野公園のミュージアムを楽しむファミリー向けプログラム。アートからサイエンスまでバラエティのあるテーマでとびラーと一緒にじっくり観察し、大人も子どもも自分だけの発見をすることを目的としている。実施プログラムは次の通り。8月10日(木)けんちく部(東京文化会館×国立西洋美術館×都美)、9月3日(日)アート&アニマル部(恩賜上野動物園×都美)、10月29日(日)アート&サイエンス部(東京国立科学博物館×藝大×都美)、11月3日(金)ゴッホ部(東京国立博物館×都美)、12月17日(日)アーティスト部(国際子ども図書館×藝大×都美)、3月22日(木)コレクター部(上野の森美術館)()内はプログラム主催館。



うえの！ふしぎ発見「アート&アニマル部」

・ミュージアム・トリップ

6団体との連携／のべ参加者数61人(子ども+保護者・引率者数)

対象／①児童養護施設・ファミリーホーム

②経済的に困難な家庭の子どもを支援している団体

③外国にルーツを持ちカルチャー・ギャップなどの

困難を抱えている子どもを支援している団体

家庭等の状況により、ミュージアムを利用しにくい子どもたちと、その保護者をミュージアムに招待するオーダーメイドのプログラム。とびラーや学芸員、大学の教員が参加者に寄り添い、初めてでも安心してミュージアムを楽しめるようプログラムを組み立てた。今年度は次の団体と連携してプログラムを実施した。NPO法人キッズドア、NPO法人多文化共生センター東京、東京恵明学園、クリスマス・ヴィレッジ、NPO法人音まち計画、東京養育家庭の会



ミュージアム・トリップ

・あいうえの日和

上野公園の9つのミュージアムを楽しく冒険するコツを伝授するファミリー向けプログラムとして、小学1年生から高校3年生を対象に年6日間12回開催した。本プログラムでは、作品カードを使ったワークを通して、「ミュージアム・スタート・バック」の使い方、上野公園のミュージアムでの活用方法などを伝授するワークショップが開催さ

れた。353人のこどもたちの手に渡った。



あいうえの日和

あいうえの学校(学校向けプログラム)

美術館や博物館に興味のある子もない子も一同に訪れることとなる学校来館では、学校教員と連携し、事前から当日、事後までの流れをサポート。特にスペシャル・マンデー・コースでは、とびラーがこどもたちの伴走役として、充実した美術館体験を支えている。

・スペシャル・マンデー・コース

全4回開催／参加12校、参加者数592人(児童・生徒数)対象／都内幼保・小・中・高等学校(幼稚園保育園は年長クラスから受入)

展示会の休室日(月曜日)にゆったりとした会場で鑑賞授業を行うプログラム。とびラーが伴走役となって「対話を通じた作品との出会い」をサポートする。学習指導要領に基づき、観察力・想像力・言語力・表現力の発達を促し、生きる力を育むことを目的としている。学校教員と学芸員・大学教員らが綿密な打ち合わせを行いながら、当日のプログラムを中心に、事前授業から事後授業までの一連の流れを企画。前年度に引き続き、学校と美術館をつなぐ往復バスを用意し、美術館を利用しやすい環境を整えている。



スペシャル・マンデー・コース(ゴッホ展 巡りゆく日本の夢)

・平日開館コース

参加11校、参加者数370人(児童・生徒数)対象／小・中・高等学校

当館の開室日に「学校単位で来館したい」という希望や、「美術館で鑑賞授業をしたい」、という先生方に、教材貸出や事前準備から当日までのサポートを行い、通常開室日でも可能な、よりよい美術館体験を提案・実践した。(受入校数により、都外の学校も受入)



平日開館コース(東京藝大卒業修了展)

あいうえのコミュニティ

本プロジェクトでミュージアム・デビューをした過去の参加者がその後もミュージアムを活用していけるよう、継続的な活用を応援する様々な仕組みを提供。

・あいうえのスペシャル

3回開催／のべ参加者数313人(こども+保護者数)対象／各プログラムでミュージアム・デビューをしたこどもたちとその家族

・ティーチャーズ・カフェ

あいうえの学校に参加した教員とその同僚教員を対象に、上野を再訪することで、学校の連携や美術館での鑑賞授業を改めて考えるきっかけとなることを目的としたものである。2017(平成29)年度は、ブリューゲル展を特別に夜間開室し、貸切の空間の中でスペシャル・マンデー・コースと同様に、とびラーとのグループ鑑賞や個人鑑賞を体験し、プログラムに参加するこどもたちの視点から鑑賞授業を捉えなおしてもらった。

1回開催／参加者数17人 対象／学校来館でプログラムを利用した教員とその同僚教員

学校連携

公立美術館の大きな役割のひとつに、学校との連携がある。平成25年度から「Museum Start あいうえの」が始まり、当館の小・中・高校生向けのプログラムが拡充された（「Museum Start あいうえの」についてはP47～49参照）。そのためこの枠組では日常的な学校対応や教員のための研修会の開催、専門家向けの研修会への協力、インターンシップの受け入れ等を前年度に引き続き行った。また、学校団体来館の事前授業のための「鑑賞ボックス」を作成し、貸し出しを継続。このボックスには、ラミネート加工をしたA4サイズの図版カード、ポストカードやフレームスタンド等が入っている。2017（平成29）年度に実施したプログラムは以下の通り。（事業実績一覧はP55～P58参照）

ティーチャーズ・デイ

学校の教員（教科不問）を対象に、美術館をよく知り、有効に活用してもらうための研修プログラム。当館での活動の説明や具体的な学校連携事業の事例を紹介した。また、「対話による鑑賞の実践」や、「Museum Start あいうえの」で活用されている「冒険ノート」を実際に活用するワークショップを開催。参加者数28人。東京都歴史文化財団連携事業「学校と文化施設をつなぐティーチャーズプログラム2017」の一環として開催。

7月25日（火）10:00～15:00「Museum Start あいうえのをはじめとするアート・コミュニケーション事業の紹介。鑑賞ワークショップ



ティーチャーズ・デイ キッズデーのキットを使用したワーク

ティーチャーズ・ウィーク

小・中・高等学校の教員を対象に「ティーチャーズ・ウィーク」を設定し、年4回の特別展の開催後最初の土曜日から次の日曜日まで、展覧会を無料で鑑賞できる期間とし、美術館での鑑賞授業を検討してもらう場とした。ポイマンズ

美術館所蔵 ブリュエール「バベルの塔」展とボストン美術館の至宝展では、学芸員による特別レクチャーを開催。のべ参加人数504人

インターンシップ

学芸員を目指す学生や、美術館活動を支える専門的な人材育成を目的とする。主に大学院修士課程に在籍する学生を対象に、最長で1年間、年に若干名をインターン生として受け入れている。アート・コミュニケーション事業の業務補佐として従事、現場を通して学ぶ機会を提供している。今年度は2人を受け入れた。



インターンシップ

専門的研修会への協力

学芸員対象のエducator研修や、大学教員の研究グループ、図工や美術教員で構成される研究部会の研修などに協力。当館の活動の考え方や鑑賞プログラムの具体的な方法について意見交換や共有を行った。平成29年度は文化庁主催ミュージアム・エデュケーター研修、彫刻の森美術館研修、東京都現代美術館ボランティア研修などへの協力を行った。

展覧会関連プログラム

当館では、年度ごとに報道機関などとの共催による大型の特別展を4展、学芸員による自主企画展を1展、公募団体などとの連携展を3展行っている。それぞれの展覧会をより深く理解して楽しんでもらえるように、開催期間中に様々なプログラムを企画して行った。

2017（平成29）年度に実施したプログラムは以下の通り。（事業実績一覧はP.55～P.58参照）

1 特別展関連プログラム

会場では、こども用の鑑賞用ツールとして「とびらボード」（磁気ボード）の貸出を継続した。「ボストン美術館の至宝展」において、中学生以下の子供とその保護者を対象とする「キッズデー」（詳細はp.46）が開催された。「ゴッホ展」においては、紙芝居（「ぼくはフィンセント・ファン・ゴッホ」作：林綾野）の上演をアート・ラウンジにておこなった。

2 企画展関連プログラム

「杉戸洋 とんぼ と のりしろ」展の関連プログラムとして「あんみつのかんてんの色」を開催。

3 連携展関連プログラム

出品作家自身が、作品について語るトークイベント（アーティスト・トーク）や年始に開催される書の展覧会に関連するプログラムを開催。

4 特別展ジュニアガイド

中学生以下の子どもたちが展覧会を楽しみ、学ぶ助けとなるジュニアガイドを制作。都内の小・中学校などには事前に送付し、会場でも配布した。当館のウェブサイトからもダウンロードできる。2017年度は「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」にて作成した。台東区を含む都内7区の全公立小中学校、都内・埼玉県・神奈川県の小中学校等（約5,800校66,700部）に事前に配布した。そのほか都内の全公立図書館・資料館（513館27,500部）へも配布し、広報物としてのジュニアガイドの活用も行った。

5 とびラボ発展展覧会関連プログラム

とびラーによる主なプログラム
・「とびらボードでGO!」

特別展会場入口で貸し出しをしている「とびらボード」に気に入った作品をスケッチし、それをフレームに収めてオリジナルカードを作成。



紙芝居(ゴッホ展 巡りゆく日本の夢)



あんみつのかんてんの色(杉戸洋 とんぼ と のりしろ)



パパトコ はじめてのミュージアム(プリューゲル「バベルの塔」展)



イロイロとび缶バッジ(ゴッホ展 巡りゆく日本の夢)

・缶バッジプロジェクト「イロイロとび缶バッジ」

展覧会を見た記憶を小さなキャンバスに見立てた缶バッジの面にスタンプを押したり、絵を描いたりしてデザインし、その場で缶バッジに仕立てるワークショップ。

・「見学会」、「ヨリミチビジュツカン」

作品解説型のギャラリートークではなく、その時、その作品を前に感じたことや気づいたことを参加者同士で言葉にして共有しながら作品を鑑賞する会を開催。

・「アート筆談de対話鑑賞」

聴覚障害を持つ人とそうでない人が一緒に作品を鑑賞し、筆談で鑑賞体験を共有するプログラムが開催された。

・「パパトコはじめてミュージアム」

父親(パパ)と子のためのプログラム。展示室で作品を観た感想やイメージをもとに、父子で絵本を制作。



ゴッホ展ジュニアガイド

建築ツアー

「建築ツアー」は、建築家・前川國男の設計による当館の建物の魅力を知ってもらうツアー。とびラーの案内で、当館のあちこちを散策する。案内人のオリジナリティーが発揮された、それぞれ独自のツアーを展開。奇数月の第3土曜日14時から開催。6回開催し、のべ参加者数157人。この定例のツアーに加え、前年度に引き続き、ライトアップされた当館を散策する「トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー」をとびラーからの発案により開催。夜間開室日の日没後の30分間程度のツアー。14回開催し、のべ参加者数188人。2017（平成29）年度は、夕暮れ時のツアー「トビカン・トワイライト・ツアー」を開催（参加者数27名）。とびラーの自主的なプログラムである「とびラボ」発のプログラムとして事前申込制の親子ツアー「GoGo!とびかん探検ツアー」も開催された。

また、セルフガイドとして、とびラーによる「上野の杜の宝石箱」東京都美術館ヤカン・ミドコロ・スポット」「トビカン・ミドコロ・ケンチク・マップ」も引き続き配布された。また、アプリ版「トビカン・ケンチク・マップ」を作成。15ヶ国語で当館の見どころを伝えることが可能となった。



建築ツアー



トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー

障害のある方のための特別鑑賞会

普段は来場者が多く混雑している特別展示室において、障害のある方が安心してゆっくり鑑賞できるように、休室日に特別鑑賞会を開催した。事前申込制により2017（平成29）年度は「バベルの塔」展、「ボストン美術館の至宝展」、「ゴッホ展」、「ブリューゲル展」において各1回ずつ計4回行い、のべ2,614人が参加した。

とびらプロジェクトと連動し、毎回20～30人程度のとびラーが当日の運営に関わるとともに、任期満了したアート・コミュニケータから構成される「アート・コミュニケータ東京」にも協力を依頼し、プログラムを実現している。展覧会担当芸員による展覧会解説「ワンポイント・トーク」（手話通訳付き）も企画棟ホワイエ（ロビー階）で行った。また、とびラーの発案により、ワンポイント・トークの際に、モニターにキーワードを文字表示することで、より多くの方にも伝わるようにした。

〔運営協力：アート・コミュニケータ東京〕



ワンポイント・トーク風景



鑑賞会風景

調査・研究プロジェクト・その他

アクセス鑑賞プログラム研究

公募団体主催障害者向けプログラムへの協力

当館のミッションに合致するプログラムを行っている公募団体のうち、協力依頼のあった団体への事業協力を行っている。2017(平成29)年度は、日本彫刻会「タッチツアー・特別支援学級鑑賞教室」、国画会彫刻部秋季展「視覚特別支援学校とのワークショップー彫刻鑑賞と制作体験vol.6」に事業協力し、特に、国画会彫刻部秋季展の企画については、とびラーは、参加者とともに作品を鑑賞し、制作体験を一緒に行うなど、協力体制がより具体的になってきている。



国画会彫刻部秋季展彫刻鑑賞

上野「文化の杜」連携プログラム

数寄フェス関連プログラム①「ベビーといっしょにミュージアム」2017年11月17日(金)10:30～/13:30～
参加20人 任期満了後のアート・コミュニケータたちによる、乳幼児を連れた保護者向けの展覧会鑑賞プログラム。「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」展にて開催。

数寄フェス関連プログラム②「手話通訳付き建築ツアー」2017年11月18日(土)14:00～参加6人 定例開催の建築ツアーの1チームを聴覚障害者のためのツアーとして運営。手話通訳者、筆談対応等を手配し、バリアフリーなツアーを開催した。



数寄フェスプログラム「手話通訳付き建築ツアー」

モナシュ大学・イミグレーション・ミュージアムとの意見交換会

2017年10月13日

来館メンバー：岩淵功一氏(モナシュ大学、オーストラリア)、リンダ・スプロール氏、ジャン・モロイ氏、マギー・ワトソン氏(イミグレーション・ミュージアム、メルボルン)、アリス・ブン氏(詩人、アーティスト)、L-FRESH The LION(ヒップホップ・アーティスト)

オーストラリア・モナシュ大学の岩淵氏がメルボルンのイミグレーション・ミュージアムの方々とアーティストを伴って視察のため来館。当館の「Museum Start あいうえの」や「とびらプロジェクト」の活動に特に関心があるとのこととで説明を行い、ミュージアムを拠点とした文化多様性に向けた取り組みについての意見交換会を行った。メルボルンにある「イミグレーション・ミュージアム」は、移民にまつわる歴史展示にとどまらないダイナミックな活動形態を持ち、ときにアートもその企画の中に取り入れ、教育普及活動やコミュニティに根ざした活動を盛んに行っている。メルボルンのミュージアムに所属する専門スタッフの方々からは館の運営理念や事業内容の説明を受け、今後もなんらかの交流プロジェクトを行いたいとの意向を伺った。

とびらプロジェクト活動アーカイブ

2012(平成24)年度にスタートし、2017年度で6年目を迎えたプロジェクトについて、その活動をアーカイブし、一般の方も参照できるよう、書籍とする準備が開始された。プロジェクト・マネージャーの伊藤、稲庭を始め、今までに開催されたプログラムを企画運営してきた任期満了したアート・コミュニケータたちや、プログラム参加者へのインタビュー等が行われた。また、残されてきた、記録(企画書や記録写真・動画)を参照し、とびらプロジェクトが歩んできた軌跡を可視化する作業が行われている。

アート・コミュニケーション事業 2017(平成29)年度 実績

2017年度アート・コミュニケーション事業のプログラムに参加・関わったのべ人数：36,097人

とびらプロジェクト(P.42～P.46)		*プログラム参加者、保護者、外部講師および視察等を含む			
項目	内容	開催期間・開催日	参加者数		
			アート・コミュニケータ	開扉とびら	一般*
アート・コミュニケータ養成		2017年4月～2018年3月	132		
7期とびら 2次面接		2018年3月9日(金)、10日(土)、11日(日)	3日間		43
基礎講座		4月15日、29日、5月13日、27日、6月10日、24日、番外編7月8日、いずれも土曜日	7回	399	52
	講座準備		1回	2	
	映像視聴		12回	13	
実践講座 鑑賞		6月26日(月)、7月17日(月)、24日(月)、8月28日(月)、11月6日(月)、27日(月)、12月2日(土)、2018年2月5日(月)、19日(土)、番外編12月8日(金)、19日(火)、2018年2月24日(土)、25日(日)	9回	402	70
実践講座 アクセス		7月2日、9日、9月17日、10月1日、22日、12月3日、2018年2月18日、いずれも日曜日	8回	396	60
実践講座 建築		7月22日(土)、29日(土)、8月26日(土)、10月7日(土)、12月9日(土)、2018年2月10日(土)、17日(日)	8回	224	25
	映像視聴		1回	1	
とびらステーション・開扉式		12月16日(土)、2018年3月31日(土)	2回	144	15
とびらプロジェクト・オープンレクチャー	vol.7 Eating Designer マライエ・フォーゲルサングが語る『食べること×デザイン』	7月1日(土)		29	152
	vol.8 人々が本当に幸せに暮らせる社会とは？一歩を式×とびら式	11月26日(土)		35	140
とびらプロジェクト・フォーラム	アート・コミュニケータ奮闘記—うまくいったり、いかなかったり(二部構成)	2018年2月3日(土)		79	30 316
外部講師によるとびら向けレクチャー	ライフスタイル研究(東北大学 古川教授)	9月16日(土)		30	
	インタビュー講座(西村佳哲)	11月26日(日)		38	14
とびらボ		2017年4月～2018年3月	270回	1663	
	もしものときとびらボ(消防訓練)	10月2日(月)、2018年2月19日(月)	2回	6	
	事前勉強会「プーシキン美術館」展	2018年3月3日(土)		27	9
	女子美さんぽ	2018年3月4日(日)	2回	15	17
	「BENTO おべんとう展」ワークショップ	2018年3月17日(土)、20日(火)	2回	20	
これからゼミ	説明会	6月24日(土)		33	
	これからゼミ ミーティング	2017年4月～2018年3月	31回	245	
	これからカフェ(任期満了とびらへの話しを聞く会)	7月17日(月)		13	
	長生村鑑賞ツアー	11月12日(日)、2018年3月27日(火)	2回	32	64
藝大連携プログラム(講義、藝祭、卒業・修了展など)	藝大生インタビュー		13回	40	17
	藝大講義(色彩学)	9月28日(木)、29日(金)、30日(土)	3日間	59	100
	藝祭さんぽ	9月9日(土)		21	61
	卒業さんぽ	2018年1月28日(日)、29日(月)、31日(水)、2月1日(木)	4回	35	42
	藝大卒業展なりきりアーティスト	2018年2月3日(土)		8	6
	さくらアート幼稚園卒業鑑賞(事業withとびら)	2018年1月30日(火)		6	15 32
TURN連携プログラム	TURNサポーター	8月18日(金)、19日(土)、20日(日)	3日間	39	3
	TURNさんぽ	8月18日(金)、19日(土)、20日(日)	3回	14	38

Museum Start あいうえの(P.47～P.49)

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数		
			アート・コミュニケータ	開扉とびら	一般*
あいうえのファミリー(こどもと家族のプログラム)	うえの!ふしぎ発見	8月10日(木)、9月3日(日)、10月29日(日)、11月3日(金)、12月17日(日)、2018年3月22日(木)	6回	83	172
	あいうえの日和	8月19日(土)、20日(日)、11月18日(土)、19日(日)、2018年3月17日(土)、18日(日)	6回	45	737
	【ミュージアム・トリップ(インクルーシブ・プログラム)】				
	NPO法人キッズドア	7月27日(木)		16	16
	NPO法人多文化共生センター東京	7月29日(土)		8	9
	東京恵明学園	8月17日(木)		4	7
	クリスマス・ヴィレッジ	8月24日(木)			4 7
	NPO法人音まち計画	10月21日(土)		6	14
	東京養育家庭の会	2018年3月25日(日)		8	8

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数			
			アート・ コミュニケーター	開扉とびラー	一般*	
あいうえの学校 (学校向けプログラム) スペシャルマンデーコース のべ12校 参加生徒・児童 数592名	【ボストン美術館の至宝展】					
	江東区立江島第三小学校(小学校6年生)	9月11日(月)	29		103	
	足立区立足立入谷小学校(小学校5年生)	9月11日(月)	18		40	
	私立日本聾話学校(中学校1～3年生)	9月11日(月)	13		22	
	足立区立梅島第一小学校(小学校1年生)	9月25日(月)	9		46	
	足立区立興本小学校(小学校5年生)	9月25日(月)	15		78	
	私立明暗学園(年長～小学校6年生)	9月25日(月)	21		50	
	【ゴッホ展 巡りゆく日本の夢】					
	板橋区立板橋第五中学校(中学校1年生)	11月13日(月)	11		40	
	台東区立松葉小学校(小学校4,5年生+特別支援学級)	11月13日(月)	16		61	
	足立区立扇小学校(小学校5年生)	11月13日(月)	16		58	
	【プリューゲル展 画家一族 150年の系譜】					
	江東区立深川一丁目保育園(年長)	2018年2月13日(火)	6		25	
	足立区立東加平小学校(小学校3年生)	2018年2月13日(火)	17		90	
	江戸川区立南小岩第二小(小学校3年生)	2018年2月13日(火)	20		89	
あいうえの学校 (学校向けプログラム) 平日開館コース のべ11校 参加生徒・児童 数370名	【ボストン美術館の至宝展】					
	足立区立扇中学校(美術部)	8月1日(火)			15	
	都立浅草高等学校、都立足立西高等学校、都立荒川工業高等学校、私立岩倉高等学校(高校1～3年生)	8月2日(水)	9		34	
	【ゴッホ展 巡りゆく日本の夢】					
	文京区立第三中学校(特別支援級)	12月11日(月)	11		22	
	品川女子学院(中学校1年生)	12月19日(火)	6		15	
	【プリューゲル展 画家一族 150年の系譜】					
	私立安田学園(美術部)	2018年1月30日(火)	3		20	
	北区立稲田小学校(小学校6年生)	2018年1月31日(水)	6		19	
	西東京市立ひばりヶ丘中学校(中学校2年生)	2018年2月1日(木)	3		203	
	埼玉県立伊奈学園中学校(中学校1年生)	2018年3月6日(火)	9		83	
	あいうえのメンバー向けプログラム	あいうえのスペシャル	8月5日(土)、10月8日(日)、12月10日(日)	3回	55	313
		ティーチャーズカフェ	2018年3月28日(水)	17		17
	学びあいカフェ	各プログラムのとびラー向け準備日	7月～2018年3月	35回	383	17
		あいうえのアンバサダー	7月～12月	16回	36	89

学校連携(P.50)

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数		
			アート・ コミュニケーター	開扉とびラー	一般*
ティーチャーズ・デイ		7月25日(火)			28
ティーチャーズ・ウィーク	ボイマンス美術館所蔵 プリューゲル「バベルの塔」展	4月22日(土)、23日(日)、25日(火)、26日(水)、27日(木)、28日(金)、29日(土)、30日(日)	8日間		161
	特別レクチャー：バベルの塔展	4月28日(金)			26
	ボストン美術館の至宝展	7月22日(土)、23日(日)、25日(火)、26日(水)、27日(木)、28日(金)、29日(土)、30日(日)	8日間		153
	特別レクチャー：ボストン美術館展	7月28日(金)			5
	ゴッホ展 巡りゆく日本の夢	10月28日(土)、29日(日)、31日(火)、11月1日(水)、2日(木)、3日(金)、4日(土)、5日(日)	8日間		76
	プリューゲル展 画家一族 150年の系譜	2018年1月27日(土)、28日(日)、30日(火)、31日(水)、2月1日(木)、2日(金)、3日(土)、4日(日)	8日間		83
	研修協力	中堅教諭等資質向上研修(台東区石浜小学校教諭受入)	7月25日(火)、31日(月)、8月5日(土)	3日間	
全国盲学校園工・美術研究会		8月10日(水)			22
府中市立小中学校教育研究会園工美術部会		8月23日(水)			17
彫刻の森美術館研修		8月23日(水)			5
東京都現代美術館ボランティア研修		9月3日(日)			23
文化庁 第7回ミュージアム・エデュケーター研修		9月5日(火)準備日、6日(水)、7日(木)、8日(金)	3日間		207
学校来館対応(「人間と社会」奉仕活動)	東京都立上野高等学校	7月13日(月)			3
学校団体来館対応(学芸員課程)	青山学院大学文学部比較芸術学科	9月18日(月)			31
観覧料免除申請(都内教育機関)	ボイマンス美術館所蔵 プリューゲル「バベルの塔」展	4月18日(火)～7月2日(日)	31件		1114
	ボストン美術館の至宝展	7月20日(木)～10月9日(月)	38件		498
	杉戸洋展	7月25日(火)～10月9日(月)	3件		79
	ゴッホ展 巡りゆく日本の夢	10月24日(火)～2018年1月8日(月)	37件		1597
	プリューゲル展 画家一族 150年の系譜	2018年1月23日(火)～4月1日(日)	23件		636

展覧会関連プログラム(P.51～52)

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数		
			アート・ コミュニケーター	開扉とびラー	一般*
【ボイマンス美術館所蔵 プリュージェル「パベルの塔」展】					
講演会等	記念講演会	4月18日(火)、5月27日(土)、6月17日(土)	3回		662
	イブニングレクチャー	6月2日(金)、23日(金)	2回		340
とびらボ発プログラム	イロイロとび缶バッジ プリュージェルの版画を体験しよう～なぞって彩る不思議な世界～	6月11日(日)		18	225
	ババトコはじめてミュージアム	6月17日(土)		8	11
	アート筆談deコミュニケーション	6月18日(日)		15	7
	オリジナル・モンスターを作ろう！ —プリュージェルの世界を楽しむワークショップ—	6月25日(日)		18	11
	同窓会鑑賞ツアー (事業withとびラー /淑徳与野高校同窓会)	6月2日(金)		8	11
とびらボードの貸出		4月18日(火)～7月2日(日)	1860枚		
スタッフ鑑賞研修会		4月27日(木)		51	19
【ボストン美術館の至宝展】					
講演会等	記念講演会	7月20日(木)、8月20日(日)、9月9日(土)	3回		525
	イブニング・レクチャー	8月4日(金)、18日(金)	2回		391
とびらボ発プログラム	事前勉強会	6月4日(日)		45	9
	ボストン美術館展で世界の作品を集めよう！トレジャークレディング	9月24日(日)		13	12
	とびからボストン！ Tokyo⇄Boston	10月6日(金)		7	4
キッズデー		7月31日(月)		34	34 2320
	準備日	7月23日(日)、28日(金)、30日(日)	3回	25	37
	ミュージアム・キット配布	7月31日(月)	1000セット		
	ミュージアム・キットを10倍楽しむ方法	7月31日(月)		3	25 420
	とびらボードでGO！	7月31日(月)		11	1 365
	とびとびスペシャル	7月31日(月)	2回	38	28
	ベビーと一緒にミュージアム(ベビーカートツアー)	7月31日(月)		2	12 17
スタッフ鑑賞研修会		7月27日(木)		35	16
とびらボードの貸出		7月20日(金)～10月9日(土)	2783枚		
【杉戸洋展 とんぼ と のりしろ】					
講演会等	トークイベント	9月24日(日)			220
	ギャラリートーク	8月4日、18日、24日、いずれも金曜日	3回		157
ワークショップ	あんみつのかんてんの色	9月23日(土)		3	29
とびらボ発プログラム	事前勉強会	7月2日(日)		38	
スタッフ鑑賞研修会		8月3日(木)		17	
【ゴッホ展 巡りゆく日本の夢】					
講演会等	原田マハ氏講演会	11月18日(土)			220
	シンポジウム	10月24日(火)			120
	イブニング・レクチャー	11月3日(金)、12月1日(金)	2回		182
紙芝居上演	はくはフィンセント・ファン・ゴッホ	11月5日(日)、12日(日)	4回		145
とびらボ発プログラム	事前勉強会	6月5日(日)		32	
	とびらボードでGO！	12月23日(土)		16	112
	イロイロとび缶バッジ ゴッホの毛糸玉～ゴッホの色遊びを毛糸でやってみよう	2018年1月7日(月)		23	210
上野文化の柱 数寄フェス	ベビーと一緒にミュージアム(ベビーカートツアー)	11月17日(金)	2回		16 20
スタッフ鑑賞研修会		10月26日(木)		34	
ジュニアガイドの配布	小中学校への配布	5964校		81178部	
	公立図書館・資料館への配布	513館		27500部	
	展示室・館内配布			32500部	
とびらボードの貸出		10月24日(火)～2018年1月8日(月)	3290枚		
【プリュージェル展】					
講演会等	講演会	2018年1月23日(火)、3月17日(土)	2回		334
	イブニング・レクチャー	2018年2月2日(金)、23日(金)	2回		291
とびらボ発プログラム	事前勉強会	11月25日(土)		25	7
スタッフ鑑賞研修会		2018年1月25日(月)		26	14
とびらボードの貸出		2018年1月23日(火)～4月1日	1274枚		
【上野アーティストプロジェクト 現代の写実】					
講演会等	講演会	12月9日(土)			65
	アーティストトーク	11月25日、12月2日、16日、いずれも土曜日	3回		450
	ギャラリートーク	11月24日(金)、12月22日(金)	2回		52
とびらボ発プログラム	事前勉強会	9月2日(土)		11	
スタッフ鑑賞研修会		11月23日(木)		21	

建築ツアー(P.53)

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数		
			アート・ コミュニケーター	開扉とびラー	一般
建築ツアー	建築ツアー	5月20日、7月22日、9月16日、11月18日、2018年1月20日、3月17日、いずれも土曜日	6回	69	181
	手話通訳付建築ツアー (上野文化の杜 数寄フェス連携)	11月18日(土)		3	6
	トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー	4月21日、5月19日、6月9日、7月21日、8月25日、9月22日、10月27日、11月24日、12月8日、2018年1月26日、3月2日、16日、いずれも金曜日	12回	85	140 188
	トビカン・トワイライト・ツアー	8月11日(金)		8	19
	親子でGoGo! とびかん探検	2018年1月21日(日)		17	17

障害のある方のための特別鑑賞会(P.53)

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数		
			アート・ コミュニケーター	開扉とびラー	一般*
障害のある方のための特別鑑賞会 準備日		4月27日(木)、7月27日(木)、11月6日(月)、2018年1月25日(木)	4回	47	
障害のある方のための特別鑑賞会	ボイマンス美術館所蔵 プリュージェル「バベルの塔」展	5月29日(月)		38	24 1095
	ボストン美術館の至宝展	8月28日(月)		40	21 1076
	ゴッホ展 巡りゆく日本の夢	12月11日(月)		21	24 1153
	プリュージェル展 画家一族 150年の系譜	2018年2月27日(月)		26	16 1034

調査・研究プロジェクト(P.54)

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数		
			アート・ コミュニケーター	開扉とびラー	一般*
アクセス鑑賞プログラム研究	日本彫刻会鑑賞教室	4月21日(金)、28日(金)	2回		62
	国画会彫刻部視覚障害特別学校ワークショップ	11月5日(日)		10	25

平成29年度 東京都美術館年報

Tokyo Metropolitan Art Museum
Annual Report 2017

発行日／平成30年9月

執筆・編集／東京都美術館

印刷／株式会社ルナテック

発行／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館

〒110-0007

東京都台東区上野公園8-36

TEL 03-3823-6921(代表)

FAX 03-3823-6920

© Tokyo Metropolitan Art Museum, 2018

